

製品安全データシート

会社名 有限会社 田辺鋳金 (撥水道場)
住所 京都市南区吉祥院稲葉町8
担当者 田辺 誠
電話番号 075-681-7868 FAX 075-681-7864
緊急連絡先 同上
作成・改訂 2023年12月19日

整理番号 7021

(1)

製品名 ピュアコートZERO サイド (ガラス撥水剤)

物質の特定 単一製品・混合物の区別 混合製品

含有成分 No	1	2	3	4
化学名	変性シリコーン (ジメチルシリコーン他)	イソプロピル アルコール	PTFE	イオン液体
含有量	5～5.5%	17～18%	0.1～0.2%	74.8～78.9%
化審法	(7) -476	(2) -1265	(6) -939	記載なし
安衛法	公表	公表	公表	記載なし
PRTR法	該当せず	該当せず	該当せず	該当せず
CAS No	63148-62-9	67-63-0	9002-84-0	記載なし
国連分類及び 国連番号	該当せず			

危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 分類の名称：加熱して引火する物質

主な危険有害性は次の通りである。

危険性：消防法危険物第四類アルコール類含有物質

有害性：高濃度蒸気の暴露は吐き気、頭痛を生ずる恐れあり。

環境影響：現在迄のところ有用な情報なし。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



応急処置 目に入った場合：清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：水と石鹸で付着した部分を洗う。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移す。身体を毛布などで被い保温して安静に保ち、必要なら医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合：無理に吐かせないで医師の診察を受け、口の中が汚染されている

火災時の措置	消火方法	<p>場合は水で十分に洗うこと。</p> <p>: 1. 火元への燃焼源を断つ。</p> <p>2. 初期の火災には、粉末・炭酸ガス消火剤を用いる。</p> <p>3. 大規模火災の際には泡消火剤を用いて空気を遮断する事が有効であり注水は、火災を拡大し危険な場合がある。</p> <p>4. 周囲の設備などに散水して冷却する。</p> <p>5. 消火作業の際には、風上から行き必ず保護具を着用する。</p> <p>6. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>消火剤 ; 霧状の強化液、泡・粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。</p> <p>消火に棒状の水を用いてはならない。</p>
漏出時の措置	周辺に着火源を取り除く。	<p>1. 大量の場合：漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。作業の際には必ず保護具を着用し、漏洩した液は土砂などでその流れを止め安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収し河川・下水道などに排出されないように注意する。</p> <p>2. 少量の場合：土砂、ウエスなどで吸着させて空容器に回収し、その後、完全にウエスなどで拭き取る。</p> <p>3. 海上の場合：オイルフェンスを展開し拡散を防止し、吸着マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合には、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。</p>
取り扱い	<p>取扱：1. 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所・貯蔵所・取り扱う所で行う。</p>	<p>2. 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。</p> <p>3. 常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する。</p> <p>4. 静電気防止対策を行い、作業服、靴等も導電性の物を使用する。</p> <p>5. アルコール類から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気等への注意が必要である。</p> <p>6. 危険物が残存している機械設備等を修理又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。</p> <p>7. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合には保護具を着用する。</p> <p>8. 容器は必ず密閉すること。</p> <p>9. 口で吸い上げるようなこと（サイホン）はしない。</p>
保管上の注意	保管：1. 冷暗所で換気の良い場所に保管する。	<p>2. 危険物の表示をして保管する。</p> <p>3. 熱、スパーク、火災及び静電気蓄積を避ける。</p> <p>4. 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。</p> <p>5. ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。</p>

暴露防止措置	管理濃度	: 規定なし。
	許容濃度	: 日本産業衛生学会（1993年度版）記載なし。 ACGIH（1993～1994年度版）記載なし。
	設備対策	: ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 取り扱い場所の近辺に洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。
	保護具	: 呼吸用保護具；必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。 保護眼鏡 ; 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。 保護手袋 ; 長期間又は繰り返し接触する場合は耐油性の物を着用する。 保護衣 ; 長時間に渡り取り扱う場合又は濡れる場合には、耐油性の長袖作業服を着用する。

物理／化学的性質	外観等	: 乳化色液体
	揮発性	: あり
	密度（15℃）	: 0.85 g/cm ³ ～0.90 g/cm ³
	初留点	: 83℃
	溶解度 水	: 部分溶解
	流動点	: -6.0℃以下

危険性情報 (安定性・反応性)	引火点	: 83℃ (PM)
	発火点	: データなし
	爆発限界	: -
	可燃性	: あり
	発火性（自然発火性、水との反応性）	: なし
	酸化性	: なし
	自己反応性・爆発性	: データなし
	安定性	: 安定
反応性	: 強酸化剤との接触は避ける。	

有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）

皮膚腐蝕性	: なし
刺激性（皮膚・眼）	: 長期又は繰り返し接触する場合には刺激性がある恐れあり。
感作性	: データなし
急性毒性（50%致死量を含む）	: ラットLD ₅₀ 5 g/kg 以上（推定値）
亜急性毒性	: データなし
慢性毒性	: データなし
がん原生	: データなし
変異原生（微生物・染色体異常）	: データなし
生殖毒性	: データなし
催奇形性	: データなし
その他（水と反応して有害なガスを発生する等を含む）	: データなし

環境影響情報	分解性	: 現在迄のところ有用なデータなし
	蓄積性	: 現在迄のところ有用なデータなし
	魚毒性	: 現在迄のところ有用なデータなし
	その他	: データなし

廃棄上の注意	1.	業者は産業廃棄物を自ら処理するか又は、知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理をする。
	2.	投棄禁止
	3.	焼却する場合は安全な場所であつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は被害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに見張り人をつけること。

輸送上の注意	1.	運搬に際しては、容器に漏れのない事を確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積みこみ、荷崩れの防止を確実にすること。
	2.	指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、当該、危険物に該当する消火設備を備えること。運搬時の積み重ね高さは3 m以下とする。
	3.	第一類及び第六類の危険物及び高圧ガスとの混載はしないこと。

適用法令	化審法及び労安法の既存化学物質名簿への登録	
	消防法 危険物	: 第四類アルコール類
	労働安全衛生法	: 危険物 (引火性の物)
	水質汚濁防止法	: 油分排出規制 (5 mg/ℓ 許容濃度) ノルマルヘキサン抽出分として検出される。
	海洋汚染防止法	: 油分抽出規制 (原則禁止)
	下水道法	: 鉱油類排出規制 (5 mg/ℓ)
	廃棄物の処理及び清掃 に関する法律	: 産業廃棄物規制 (拡散・流出の禁止)

その他 (記載内容の問い合わせ先、引用文献等)

1. 許容濃度の勧告 (1993) 日本産業衛生学会 産業医学 35巻 (P323-367)
2. Threshold limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices ACGIH(1993-1994)
3. IAPC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUE 33
4. 製品安全データシートの作成指針 (日本化学工業協会)

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取り扱いを確保するための参考情報として取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う業者はこれを参考として自らにおいて、個々の取扱等の実態に応じた適切な処置を講ずる事が必要であることを理解した上で、活用されるようお願い致します。従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。